

まだ、お世話する側で頑張る

野口様は入居されて31年になられます。

入居当初より、特養にお手伝いに出かけたり、ご主人様とお二人で里のご入居者の車椅子を押し、散歩へ出掛けるといった事もされていたそうです。ご主人様の具合が悪くなり、その間1年ほどボランティアをお休みされました。ご主人様は平成3年に他界、自分の時間が持てる、趣味が出来ると思われたよう

ですが、趣味をするにしても少しでも人の役に立っていると思えばと、その時からボランティアに本腰を入れようと思ったそうです。その思いが心の支えになっていたそうです。「私は主人から『ボランティアはあなたの趣味だね』と言われていたから（笑）」

現在は、週2日、近くの特別養護老人ホームへボランティアに行かれています。毎週（火・金）13：00～17：00まで、20名程いらっしゃる利用者のお話し相手、洗濯・食器洗い・おやつ作り、認知症の方の見守り等、休む事なく動かれています。

お父様から影響を受けた奉仕のこころ

お父様は会社経営者で、自分より社員を大切に、人を家に呼ぶことが好きで、食事も家族・社員も一緒という方だったそうです。分け隔てなく誰にでも接する姿や、海外の子供の支援やボランティアをされている姿を見て育った野口様。お父様より厳しく言われた事は全くなかったが、唯一いつも言われていた言葉『親の築いたものは、お前のものではない』、ライオンの子育てだったそうです。

今は「ばあば」と頼られるのが生きがい

利用者の方は、野口様が来るのを心待ちにされていて、野口様が急用でこの日は行けないと言うと、来る日を変更される方もいらっしゃるほどだそうです。利用者の方は、野口様と年も



おやつ配膳中。「おいしそう」



お洗濯も大切なお仕事！



お部屋の前はプチ花壇♪

近いせいか昔話に花が咲いたり、時には相談者になったり、野口様も料理を教わったり学ぶことが沢山あるとのこと。

「職員さんは私の子供世代もいれば孫世代もいます。『ママ』とか『ばあば』と呼ばれています。私に来る事を職員の方も利用者の方も楽しみにしてくれていることが一番うれしいです。動けるうちは人の役に立ちたいと思っています。これが私の生きがいであり、楽しみにもなっています。元気でいられるのも、この仕事があるからだと思っています。年を忘れて働いています（笑）」と野口様。

お孫様も野口様の姿を見ていたので興味を持たれ、夏休み遊びに来た時には、一緒にボランティアに行かれていたそうです。長年人の為につくされ、生き活きと暮らす野口様を私も素敵だと思い尊敬しています。これからもお元気に続けて頂きたいと思います。